

平成30年度行政事業レビューシート (総務省)

事業名	国際電気通信連合 (ITU) 分担金・拠出金			担当部局庁	国際戦略局	作成責任者				
事業開始年度	昭和24年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	国際政策課	課長 高地 圭輔				
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な条項も記載)	総務省設置法第4条第1項第72号			関係する計画、通知等	国際電気通信連合憲章28条及び同条約33条					
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	我が国の電気通信の国際間における接続運用、標準化等の発展を図り、周波数、衛星軌道位置等の権益を確保するとともに、この分野の国際協力を促進するため、構成国として分担金及び拠出金を負担する。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	国際電気通信連合 (ITU) は、電気通信に関する国連の専門機関であり、国際的な周波数の分配、電気通信の標準化、開発途上国に対する技術援助等を主要な目的としている。分担金は、国際電気通信連合憲章第28条及び同条約33条に基づき、構成国として連合の経費を負担するもの。									
実施方法	その他									
予算額・執行額 (単位:百万円)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度要求			
	予算の状況	当初予算	694	787	625	633	633			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
		計	694	787	625	633	633			
	執行額		694	787	625	-				
	執行率 (%)		100%	100%	100%	-				
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		100%	100%	100%	-				
平成30-31年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目		30年度当初予算	31年度要求	主な増減理由					
	政府開発援助国際電気通信連合等分担金		194	194	増減なし					
	国際電気通信連合分担金		369	369						
	国際電気通信連合等拠出金		70	70						
	その他		0	0						
	計		633	633						
	成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 30年度	目標最終年度 -年度
国際機関への貢献を通じた我が国の方針の反映及びプレゼンスの向上		ITUの職員数(専門職以上)に占める日本人職員数の割合 目標値は分担金割合	成果実績	%	1.8	1.8	1.9	-	-	
			目標値	%	-	9	9	9	-	
			達成度	%	-	20	21.1	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	ITU作成資料「Preliminary amount of the contributory unit (C18/61 Annex1)」及び「Human Resources Reporting and Statistics(Updated 31 December 2017)」									
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 30年度	目標最終年度 -年度	
	国際機関への貢献を通じた我が国の方針の反映及びプレゼンスの向上	ITUの幹部職員数(D1以上)に占める日本人幹部職員数の割合 目標値は分担金割合	成果実績	%	5	4.8	4.5	-	-	
			目標値	%	-	9	9	9	-	
			達成度	%	-	53.3	50	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	ITU作成資料「Preliminary amount of the contributory unit (C18/61 Annex1)」及び「Human Resources Reporting and Statistics(Updated 31 December 2017)」									

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込	
	活動実績	当初見込み							
ITUが開催する国際会議等の数(参考値)	活動実績	回	回	350	366	325	-	-	
	当初見込み	回	回	-	-	366	325	325	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込		
	ITU分担金・拠出金／国際会議等の数	単位当たり コスト					百万円	2	2.2
			計算式	百万円/回	694/350	787/366	625/325	633/325	
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	V. 情報通信(ICT政策)							
	施策	6. ICT分野における国際戦略の推進							
	測定指標	定量的指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		二国間での定期協議、政策協議、国際機関等における会議への参画及び意見交換への実施状況	実績値	回	47	48	58	-	-
			目標値	回	38	38	38	-	-
	定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)					
				-					
				施策の進捗状況(実績)					
				-					
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
ITU構成国の義務として分担金を負担し、また、拠出金によりITUの活動を支援することにより、ITUに対する直接的な影響力の確保、我が国の政策の反映など、ITUにおける我が国のプレゼンスを向上させることとなるため、円滑な情報流通等、我が国ICT企業の海外展開に寄与する。									
改革項目	分野:	-							
(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	29年度	30年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	-	成果実績	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	
	達成度	%	-	-	-	-	-		
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	29年度	30年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	-	成果実績	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	
	達成度	%	-	-	-	-	-		
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	ITU憲章に定められたITU構成国の義務として、国が分担金を負担する必要がある。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	ITU憲章に定められたITU構成国の義務として、国が分担金を負担する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	ITUにおける我が国の権益の確保やプレゼンス維持・強化等に資するものであり、政策体系の中で優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	連合の目的を達成するための連合の運営に必要な経費に充てられている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	電気通信分野における我が国の地位・国力に応じた負担で有り、かつ、国際電気通信連合における権益の確保、影響力行使に資するもので、我が国は、1959年以来、ITUの運営について実質的な意思決定を行う理事国(全48カ国)に選出されている他、我が国からITU事務局以外にも研究委員会の議長・副議長に12名を輩出しており、ITUの活動に大きく貢献している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	本件支出はITU構成国の義務であり、ICT分野における我が国の地位・国力に応じた負担である。この財政的貢献により我が国は周波数、衛星軌道の確保など権益を確保し、ITUの実質的な意思決定機関である理事会理事国(48カ国)にも選出されるほか、我が国から研究委員会の議長・副議長に12名を輩出している等、国際舞台での権益の確保と活動への貢献となっている。	
	改善の方向性	連合加盟国の責務として、今後も国が継続して負担。	
外部有識者の所見			
分担金・拠出金の額とアウトカム、アウトプットの指標とはリンクしているのか？達成度が変わらないのであれば、なぜそういった数値目標を立てるのか不明。			
行政事業レビュー推進チームの所見			
現状通り	条約等に基づくもの。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
現状通り	成果指標の説明に不明瞭な点があったので、記載を修正 アウトカム指標(邦人職員数)について、行政事業レビューシート作成要領にしたがって指標を設定している。目標値は、日本の分担単位(30)/全加盟国の総分担単位(334.25)で算出している。 アウトプット指標の国際会議等の開催数は分担金・拠出金がITUにおいて効果的に活用されているかを測るものであり、また、国際会議は我が国の方針を主張し、反映する場となり得るため、指標として適切と考える。		

